

今日は、皆さんこんにちは。今日はおお客様としまして、北山様、松河様、本日入会されます森会員・寺尾会員紹介の宮光世裕様、ようこそお越しいただきました。ごゆっくりとお過ごしください。

9月16日(日)開催の全国ロータリークラブ野球大会前夜祭が行われ、甲子園クラブが「御国自慢」優秀賞を受賞しました。木嶋会員脚本・大波加会員監督のもと、出席者全員のサザエさん、中川(圭)・吉住・川崎(孝)会員のアキラ 100%、高田幹事の菊の井 村田さん等 素晴らしいパフォーマンスで大変盛り上がりました。特に衝撃的だったのは吉住会員の『小島よしお』です。本物かと見間違えました。貴重な芸を見せていただいて感動しました。皆様ご苦労様でした。9月17日(月・祝)の試合結果につきましては、木嶋監督の『熱闘甲子園』でお楽しみ下さい。

「日本経済新聞」の朝刊最終面の文化欄に「私の履歴書」があります。政治、経済、文化、学術、芸能、スポーツなど各界のリーダーたちが、ひと月単位で自伝を語っているコラムです。

「私の履歴書」の魅力は、執筆者本人にしか語れない生きた教訓や助言を惜しげもなく披露してくれているところにあります。

「私の履歴書」の執筆者たちは、その不遇時代に黙々と努力を続け、次の飛躍に備えて力を蓄え、大成していきます。

『樋口廣太郎(アサヒビール名誉会長)』の場合、『スーパードライの生みの親』アサヒビールの社長に就任した樋口が、社内の反対を押し切って売れ残っていた古いビールをすべて店頭から回収・廃棄し、それが結果的にアサヒ再興につながった話は有名である。

住友銀行からアサヒビールには3代続けての社長を送り込んでいたが、業績は回復せず、当時のシェアは過去最低の9.6%まで落ち込んでいた。磯田会長からアサヒビール転出の話があったとき、樋口は自発的に引き受けた。

そして、住友銀行退職の別れの挨拶で、銀行の役員、支店長を前に「香典をいただきたい」「自分と働いて楽しかった人は3万円、この野郎と思った人は厄払いとして、1万5千円、なんとも思わない人は1万円」と言い、アサヒビールと討ち死に覚悟の意気込を銀行員に披露したという。

岐路に立っていたアサヒビールを再生するため、売れ残ったビールの在庫をすべて処分し、全国の取扱店、顧客を回り、生の声を謙虚に聞き、納得すべき点は即、それを実行に移した。13年後、アサヒビールは奇跡の復活を果たし、45年ぶりにビール部門でトップに返り咲いた。

この「私の履歴書」には、それぞれの分野の優れた人たちの人生の縮図が書かれています。これを読むと、他人の人生であっても、自分が疑似体験したのと同じ感じになります。人生を広く深く感じることができます。

